

消防署見学

ドイツ編

1月に小学部3年生の社会科の学習で、学校の近くにある消防署の見学に行きました。ドイツの消防署には、子どもたちを教育する担当者がいらっしゃいます。見学を希望すると、要望を受け入れてくださいます。将来を担う子どもたちを教育するシステムがしっかりと整えられています。社会全体でキャリア教育が行われています。消防署内の施設や7台もある消防車を見せていただき、英語で説明していただきました。消防車に乗って消防署の敷地を一周させていただきました。みんな大喜びでした。



ドイツの消防車のランプは青色です。

〈ドイツの消防署〉

日本とドイツの消防署で大きく異なるのは、組織のあり方です。大きな都市は、日本とほぼ同じように、消防士を専門の職業とする消防士が消防署に勤めています。しかし、これは大きな都市のみで、その近隣の消防署においては、ボランティアの消防士で組織されています。日本でいう「消防団」と似ています。しかし、日本の消防団よりも任されている任務は大きいように感じました。火事が起こったときの仕事内容は、消防士を職業にしている人と同じです。火事の通報を受け、直ちに消防車を出動させて消火活動を行います。大規模な火事の場合は他から応援が来ますが、通常は地域の消防署で消火活動を行います。このように、他に仕事を持っている消防士で組織されている消防署が多いのが、ドイツの消防署の特徴といえます。

〈消防士の仕事〉

消防士は火事を消す仕事だけでなく、人々が安全に暮らすためにさまざまな仕事をしています。

- ・ 消火活動
- ・ 事故現場から人を救助
- ・ 湖や池でおぼれた人を救助
- ・ 災害時の対応
- ・ 防火教育
- ・ 交通の邪魔になる道路の木を切る
- ・ 動物の保護 (木の上から降りられなくなった動物などを救助) など。

また、いつ火事が起きてもいいように、2週間ごとに訓練をしています。

〈火事が起こると〉

火事が起こると「112」番に通報します。まず消防管制室につながります。そこから消防士、消防署、病院、警察署、電気会社、水道会社等に連絡が入ります。ボランティアの消防士は、右下のような無線機を全員が持っています。それぞれの消防士に火事の連絡が直接入るようになっていきます。この連絡を受けて、自分の勤務先から消防署へ集まり、出動します。どんなに遅くても10分以内に現場に駆けつけ消火活動を行います。

〈早く出動するためのひみつ〉

その1 消防車はいつでも出動できるように、進行方向を向いて1列に並んでいます。



その2 防火服は、すぐに着られるようにしてあります。



靴の上にズボンをかぶせて、一度にはくことができるようにしてあります。



その3 休暇や仕事を調整し、いち早く駆けつけられる人を当番で決め、交代しながら対応しているそうです。

〈防火服のひみつ〉

これが、ドイツの消防服です。日本のものと同じように、燃えにくい素材でできているので、火の中に飛び込んでも大丈夫です。

ライトがついています。

反射板がたくさんついていて、暗いところで作業するときにもよく目立ちます。

ベルトには命綱がつけられています。



〈消防車のしくみ〉

消防車には、いろいろな種類があります。目的に応じて出動する消防車が異なります。自動車事故が起こった場合には、ドアをこじ開けるペンチやのこぎりが収納された消防車を出動させます。火事専用の消防車もあります。大量の水を貯めておくことができます。

膝の部分は破れにくいように二重にしています。

現場で情報を収集し、全体に指示を出す車



車両止め



交通事故のときに使用

補充用酸素ボンベ

約20分間火の中で活動できる



2人まで座って作業できる。ファックス、電話、モニターがある

ライト

コード

発電機



後ろには水が1200ℓ入っている

チェーンソー



重さは18kg



木を切る作業に使用



ボート 水難救助で使用

100mものびるホース タンクにためてある水で、現場に到着してすぐに使う



消防自動車の後方

タイヤつき。ホースが巻かれている。消火栓まですばやく移動できる

消防自動車には、さまざまな道具が機能的に収納されていました。